

あかりこどもクリニックで学んだことあかりこどもクリニック

あかりこどもクリニック 1年 TH

この度、あかりこどもクリニックで診療所実習を経験した。今回の実習を通して、地域の小児科は非常に重要な機関であることを改めて感じた。実際に診察の様子を見学することにより、子ども達の診察の難しさを実感することができた。子ども達は上手く言葉を伝えられない場合が多く、コミュニケーションを一つ取るにしても困難である様子が伺えた。次に、患者さんとの接し方が他科の診察と異なるのだと知った。子ども達は自分の症状や気持ちを伝えることが難しく、保護者が大変重要な役割を果たしている。症状発症前の様子、他にみえる症状がないか、保護者から聞かなければ分からないことが多い。私は、患者さんと保護者に親身になって接することが大切であるということ学んだ。また、時には保護者のストレスや不安も聞くことが必要である。なぜならば子どもを持つ親御さんは病児や御家族のお世話に追われ、余裕を持って過ごすことができないからだ。あかりこどもクリニックでは保護者のために様々な工夫を行っていた。例えば駐車場のスペースを他のクリニックよりも広くとっていること。これはベビーカーを使用することや、子どもが隣の車にドアをぶつけてしまうなどのトラブルを防ぐための作りとなっている。クリニックの内装もよく考えられていて、保護者にとっては安心出来、子どもにとっては楽しめる空間作りに力を入れているようだ。

今回の実習では相手の立場に立ち、医療従事者である自分達が患者目線の医療を提供出来ることが大切である。そして、治療においても患者さんや医療従事者同士のコミュニケーションが重要であり、患者さんや保護者に正確な説明、指導を行うことが大切である。実際に治療をする際にも子ども達は恐怖心を持っていることが多いため、優しさや安心感を与えることが必要であった。医療従事者同士のコミュニケーションは、あかりこどもクリニックで学んだ最も重要なことのひとつである。あかりこどもクリニックは特有の理念を持っていて、報告・連絡・相談を重視し、患者さんへの対応中であつたとしても、その間に質問をしても良いことになっている。その理念をもとに、私達が質問をする際にも、気さくに答えて貰えた。また、看護師でも事務の方であってもそれぞれの仕事をサポートし合っていた。医療ミスを起こさないため、クリニック内の雰囲気をよく保つことはとても大切なことなのだ学んだ。

最後に、私はあかりこどもクリニックでの実習を通して、子ども達やその保護者の成長を見守ることができ、治療によって子供たちの QOL 向上につながる地域の小児クリニックは、患者さんや家族に信用される機関であると感じた。また、若い患者さんとのコミュニケーションが非常に重要であるため、人間力やコミュニケーション能力を磨き上げることができる分野でもあると感じた。

今回は、診療所実習において私たちを受け入れていただきありがとうございました。私たちは実習を通じて、患者さんへの診療について学び実践することができました。また、先生方からは温かいご指導やアドバイスをいただくことができ、とても貴重な経験となりました。今回の実習で得た知識や技術を、今後の成長に活かしていきたいと思っています。今後も、より一層精進してまいります。このような貴重な経験を与えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。